

CONTENTS

自作自演167 ..... 鈴木 力・宇野勇治・柳澤 力・宮原良雄 ..... 2

最終回 大垣と水の文化  
「水の惑星」 地球 島国日本 水都大垣 ..... 車戸慎夫 ..... 4

第3回 これからの都市計画とまちづくりを考える  
ストリートウッドデッキの挑戦 ..... 村山顕人 ..... 6

第4回 まちの風景  
まちのなかのみずのながれ ..... 大影佳史 ..... 8

JIA静岡発 第3回JIA塾 ..... 杉山貞利 ..... 10  
「日本の省エネ政策と断熱材」と「木造耐火建築物における石膏ボードの役割」について

JIA愛知発 JIA愛知美術サロン 雨にも負けず—スケッチ旅行記— ..... 11  
栢本良三・神谷義夫・森 鉦一・梶田英夫・山田正博・田中英彦・吉川法人

JIA愛知発 建築講演会2012—先輩建築家シリーズ—  
第3回「近代建築における文明と文化」講師：池田武邦氏 … 高嶋繁男 ..... 12

JIA岐阜発 講演会2012「常に考える」未来工業(株)創業者 山田昭男氏 … 西川光広ほか ..... 13

JIA三重発 建材研修会 建築写真とカメラの話 ..... 豊田由紀美 ..... 14

表紙シリーズ【伝統を味わう旅】を終えて ..... 塚本隆典 ..... 15

WEBマガジン「Chu-bura」がオープンしました！ ..... 生津康広 ..... 16

▶東北からのメッセージ

福島の実現 ..... 阿部直人 ..... 18  
原発問題をはずして新生活はない 建築家は目をそらさず行動しよう

第1回 JIA東海住宅建築賞のお知らせ ..... 19

保存情報136 名古屋城 乃木倉庫 ..... 尾関利勝 ..... 20  
永保寺庭園と虎溪山 ..... 鈴木祥司 ..... 20

理事会レポート ..... 小田義彦 ..... 21

東海支部役員会報告 ..... 中西修一 ..... 22

東海とっておきガイド⑤② 岐阜編 ..... 西川光広 ..... 23

地域会だより ..... 23

賛助会通信⑤ パナソニック(株)エコソリューションズ社 名古屋照明EC … 梶原浩史 ..... 24

編集後記 ..... 石田博英・佐竹一朗 ..... 24

◀ 伝統を味わう旅 — 12 — 福岡 ▶

重要伝統的建造物群保存地区【うきは市筑後吉井】

平成八年十二月十日、伝統的建造物群およびその周囲の環境が地域的特色を顕著に示している在郷町として選定されました。久留米と日田を結ぶ豊後街道の宿場町で、江戸時代後半は筑後地方の経済の中心的役割を担う在郷町に発展。明治二年の大火後、塗家造が普及し、豊後街道沿いの塗家造の町家群とその北側に広がる屋敷群、吉井の経済基盤を支えてきた河川や水路が一体となって歴史的風致を形成しています。



吉野ヶ里遺跡

うきは市は、豊富な井戸水のおかげで上水道設備のない町とこのことです。水の上に浮いた町といってもいいのでしょうか。重厚で品格のある町並みは今後の参考になると思います。

結婚二十五周年事業でもある旅としては初めてと言つていいほどの雲ひとつない天気。天頂に行くに従い深い紺色に変化していく空と、西に何も遮るものがない地平に沈みかけた夕陽に赤く染まる川面との対比は、旅の終わりを飾るにふさわしい光景でした。この旅の最後に、偶然にも吉野ヶ里遺跡を訪れました。古の人々に思いを馳せつつ民家の原型に触れることができたのは幸運なことです。



五島で買い求めた「金印」

U I A 千人茶会でお世話になった五島で「金印」を買い求め、帰宅後、抹茶をたいていただきました。次回から光崎さんが担当される

とのこと。どのような物語が繰り広げられるのか楽しみです。1年間ありがとうございました。

塚本隆典  
愛知地域会





## 鈴木 力 (JIA静岡)

U設計集団 リキ建築設計室 (富士宮市万野原新田3185-12 TEL 0544-27-2332 FAX 0544-27-2081)

### 正月・国旗・お飾り

平成24年の年の瀬、今年もあと数日、新たな準備をしなければならないそんな折、ご近所の古老が作っためずらしい「えび型のお飾り」を頂いた。これで正月が来るぞ…改めて一年の締めくり…“鎮守の森「琴平神社」”除夜の鐘と初参りで新年を祝う。

正月元旦、二日、三日……近年テレビなどでさまざまな正月行事を見ることができ嬉しい限りだが、その分地域としての行事が薄れつつあるように思える。一つひとつの地域行事や見られなくなった子どもたちの行事に、懐かしさや寂しさを感じてしまうのは小生だけだろうか。様変わりした風習はもとより、各戸の国旗掲揚やお飾りが少なくなったこともあるのではなからうか？ 気のせいばかりではないのかと思い、ご近所を見回したがやはり少なくなっていた。

いつ頃から少なくなってしまったのだろうか？ 元旦だけ国旗を掲揚するお宅はあるものの、三が日とも国旗を掲揚するお宅はほとんど見られなくなった。正月の風情は、時代と共に正月らしくなくなっていくのだろうか…。正月は箱根駅伝のストリートな情熱に熱く心打たれる姿で決まりなのかな！

JIAにご無沙汰……この2, 3年……

変化のJIA? ……この2, 3年……

少し体いたわる病院通い……この2, 3年……

家族、家内に感謝……∞

今年は「巳」の年、2013年、平成25年、昭和88年、大正102年、明治145年、紀元2673年、そして、今はない幻の年号康徳80年、康徳10年生まれ。

“おめでとうございます” 今年もよろしくお祈りします。

(国旗日の丸制定は明治3年1月27日制定)



## 宇野 勇治 (JIA愛知)

愛知産業大学 (岡崎市岡町原山12-5 TEL 0564-48-4511 FAX 0564-48-4940)

### 頃寝庵、つくりました！

最近、学生とともに作る建築が楽しい。今年は、昼寝のできる茶室のような建物をつくり、頃寝庵(ごろねあん)と名付けた。

中村武司棟梁に指導をいただきながら、伝統的な継手・仕口で軸組をつくり、大学の竹藪で採った竹で竹小舞を編んだ。その名の通り、授業のない時間にごろ寝ができるスペースである。日当たりのいい、見晴らしのよいロビーにつくった。春になったら、小舞を通る風と日差しを楽しめることだろう。半期の授業の最初に、わたり腮(あご)、長ホゾ込栓を組みあわせた小さいモデルを各自でつくるトレーニングをし、建物の制作に入った。学生はいつの間にか鑿(のみ)や鋸(のこぎり)を駆使し、それなりに刻めるようになっていて頼もしい。仕口の精度も徐々に上がってゆくの分かる。

過去に、バーベキュー場や腰掛待合をつくってきたが、図を見たり、サンプルを触るだけではよく分からない継手・仕口も、実際につくってみると実に深く納得している。車知栓が吸い込まれるように納まり、継手が固まる様子は感動ものである。みんなで行く建前はわくわくし、組み上がったときには歓声が沸き起こる。

竹小舞掻きもなかなか楽しい。竹は大学の竹藪で採り、竹割器で割り、ナタで角をとり、縄で編んだ。最初はたどどしいが、しばらくすると小気味よく腕と体が動いて、おしゃべりをしながらの楽しい作業になる。座学では控えめな学生が、がぜん輝いていたり、腕もよかったりする。伝統構法は座学で教えようとしてもなかなか実感を得にくい、つくってみると手触りや香りとともに、みんな虜になっている。

職人の世界と建築教育がつながってゆくと、もっと建築や街もが楽しいものになるのではないだろうか。



上 | 手づくりの頃寝庵  
下 | 竹小舞を編む学生



柳澤 力 (JIA 愛知)

建築計画連合 (名古屋市昭和区妙見町1-13-3F TEL 052-833-3496 FAX 052-833-3476)

### 金メダルしかない競技

金メダル至上主義の柔道界が話題ですが、「旗判定」にはなぜ?と思うことも。とはいえ、私も採点競技の器械体操をやっていたので、審査委員は神様と諦めるしかありませんでした。ロンドンオリンピックで日本男子が判定ミス覆して銅メダルを取れたのは驚きでしたが。

舞台は変わり、大学に在籍していた頃からアトリエ (第一工房) 勤務時代、そして現在、数々の実施コンペに参加してきました。仕事を取るためという以上に、何かしら「印籠」がもらえ「請負い」でない立場で設計でき、社会に建築を発信できる、そんなところが魅力です。

ただ、最近残念なことが。豊田市が逢妻交流館と自然観察の森の2回で懲り、もうコンペを実施しないと。デザインは両施設ともすばらしいと思うのですが、現場で何が良かったか感じなくもありません。しかし、選定後の設計期間が異様に短いスケジュール圧縮型コンペの増加も気になります。特殊で奇抜でない選ばれにくい反面、詰めるべき設計期間もない負のスパイラル。

応募が少ないと選定が楽という本末転倒な意見も聞かれ、審査報酬も雀の涙。欧米では設計料と同等の審査報酬と選定 (賠償) 責任があるコンペもあるとか。大物件ほど審査員非公表や言い訳コンペが数しれず、「匿名審査」と言いつつ2次では必ず実名争いになるオープン?コンペな我がニッポン。多額の税金を使い何十年も使う公共建築を選ぶ大イベントなのに、観客もサポーターも居ない感じです。各スポーツのルール改正や審判制度がオリンピックから末端アマチュアまで及ぶように、設計コンペに対し改善提案しているJIAに期待しています。余談ですが、今冬の滋賀守山市のコンペは市民投票もあり刺激的でした。決勝リーグで負けちゃって大赤字ですが (涙)。



宮原 良雄 (JIA 三重)

宮原良雄建築設計事務所 (北牟婁郡紀北町紀伊長島区長島1461-1 TEL 0597-47-2967 FAX 0597-47-3801)

### みえ木造塾2012年 第6回 講演「森林に学ぶ」～持続的社會の基本設計とは～

講師：船岡正光氏 (三重大学大学院 生物資源学研究所 教授)

#### ■講義概略 ～石油製品はすべて、森林成分でつくれる！～

21世紀はバイオの時代である。生物平衡で成り立つ生態系において、人間社会は地球生態系の一活動ユニットなのである。20世紀型活動は、人間の人間による人間のための活動であり、燃える、狂う、腐る (構造を変え次の機能体へと転換する様態) など地球生態系の中で孤立し、肥大化・暴走してきた。バイオの時代とは原点への回帰、すなわち生態系が規範となることである。動物は最適環境を選択し、植物は環境を受け入れる。その植物に着目し、分子を精密に解くと「糖」と「リグニン」に分解できる。

石油は古代の動植物の死骸である。1988年、木材から「リグニン」だけを取り出すことに成功。精製した「リグニン」を溶かした液体に、繊維をほぐした紙くずを浸して固めるとプラスチックができる。成分は100%木質であるが触感はある、石油からつくったプラスチックと同じ性質を持つ新素材。2011年、4号システムプラントを徳島県那賀町に建設。これは、リグニン・糖質の両素材を高機能形に変換する世界唯一の植物資源変換システムである。植物資源を分子レベルで全量活用し、全工程薬品もすべて回収・再利用する完全閉鎖型。地球生態系の基盤をなすシステムを攪乱しないものであり、環境保全、持続可能な社会を目指す活動の原点。樹木を木材、紙として活用することから、構成素材の分子レベルで理解し、生態系におけるその流れを機能材料としての前進型の流れに再現する全く新しい技術と社会システムが必要となる。

みえ木造塾では、設計者、工務店、大工、林業、製材業、学生など三重県内外から毎年平均80名もの受講生が、毎年6月から11月までの全6回 (第1土曜日)、約3時間にわたり木造にかかわるさまざまなユニークな勉強をしている。私はその塾生であり、毎回、目からうろことなる。



な地域です。高低差のある揖斐川が、動力に頼ることなく重力によって豊かな水資源を流域全体に運びます。「水で水を運ぶ」ことができる田園風景の中の水路は、食料の生産のみならず、草花や水生植・生物の生存など多面的な環境形成がなされ、西美濃の地域住民にとって、生活空間の高いアメニティーの形成に繋がっています。

人が2,000kcalのエネルギーを摂取するのに約2,000ℓ、つまり風呂桶10杯分の水を使ってつくられた食料を毎日食べていると言われています(ただし、川の水や地下水などブルーウォーターと呼ばれるものと、グリーンウォーターと呼ばれる耕地に降る天水も含まれています)。

水資源は少ないが石油資源が豊富な国が大量の食料を輸入しているのは、食料に必要な水を使わずに済んでいる、つまり石油で水を買っていると同じことだとして、食料の輸入は仮想水貿易(Virtual Water Trade=WVT)と名付けられました。この「仮想水」の概念は、仮に輸入国が同量の食料をつくらうとしたとき、その国での必要な水量をいいます。

日本の仮想水輸入量は年間640億 $m^3$ でその大半が食料関連のものです(図4)。

水の豊かな日本が世界有数の水(仮想水=VW)の輸入国であることによって、WVTが多いことが悪であると無条件に思いがちですが、耕地の狭い日本で小麦をつくる際の水量(VW)に比べれば、アメリカでの小麦の生産に使用される水量は日本に比べて極めて少ない量で済みます。輸入国から見れば輸出国の水をあくまで間接的に利用しているわけで、輸入国の水でカウントするよりも、輸出国の水の利用がその国の環境に与える影響を考慮した数値によるカウントの方が、

実態をよく表しているのではないかという観点で、VWTからウォーターフットプリント(WFP=水の足跡)という概念に変わりつつあります(図5)。

確かに、日本は水が不足しているわけではありません。食料自給率を高めていくことは必要ですが、山国日本では牧草地や放牧地を含めた農地が少なく、少子高齢化社会を迎え、仮想農地・仮想技術力・仮想従事者を輸入するついでに、仮想水が輸入されていると考える方が妥当でしょう。また、工業製品に関しては、日本は年間約14億 $m^3$ の正味の仮想水の輸出国となっています。日本の地理・地勢的環境、先端技術のストック、乏しい化石資源など、トータルな観点から産業構造の再構築をしていくことが必要でしょう。豊かで循環型のローカル資源である水の、農業・工業・生活環境への活用がその1つの解となるでしょう。

化石資源が排出する $CO_2$ による地球温暖化は、海面の上昇による塩害や淡水域の減少、世界的な集中豪雨の発生といった気候変動など、すべて「水の現象」となって顕在化されます。今日、エネルギーなくしては食料の生産もできません。水もエネルギーの一部です。水、食料、エネルギーの三位一体の取り組みが、持続可能な社会の構築のために不可欠な時代となってきました。

古代文明、歴史的建造物など有形文化財が世界遺産となり、人為的な影響を受けていない自然も世界遺産となっています。これら世界遺産は、まさに人間の文化・文明のフットプリントであり、観光の側面に光が当てられがちですが、持続可能な社会の可能性の有無のサンプルのような気がします。今後は水環境が生かされたエコロジカルなフィールドが、安

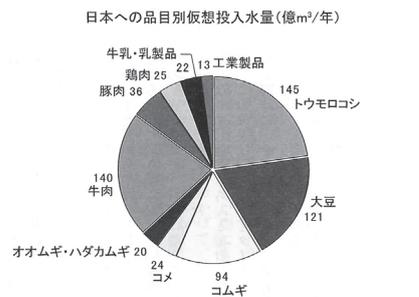
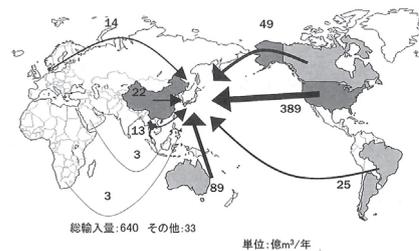


図4 主要な穀物や肉類などに伴う日本の仮想水輸入量、日本の単位収量、2000年度に対する食料需給表の統計値より算出された。(佐藤、2003より)

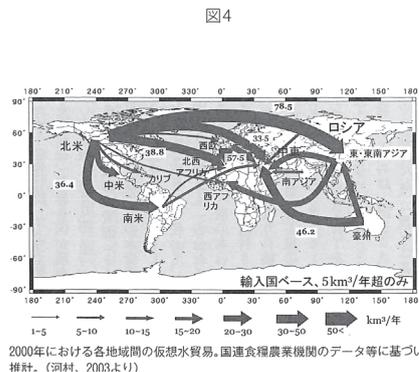


図5 2000年における各地域間の仮想水貿易。国連食糧農業機関のデータに基づいた推計。(河村、2003より)

全で豊かな生活の資産として評価される時代となるでしょう。(了)

\*参考文献:『水危機 ほんとうの話』沖大幹著、『未来につなげる揖斐川の育んだ自然と文化』(大垣商工会議所地域振興委員会)執筆:森誠一(岐阜経済大学教授)・清水進(大垣市史編纂室室長) 写真提供:河合孝



くるまど・しずお | 1947年生まれ。1974年名古屋大学工学部建築学科大学院博士課程修了。1983年より車庫建築事務所代表取締役社長。JIA岐阜会員。受賞歴:1980年大垣市立図書館(中部建築賞)、1987年揖斐川町歴史民俗資料館(日本建築学会100周年記念東海賞)、1995年西濃運輸(株)本社社屋(第1回岐阜県21世紀ふるさとづくり芸術賞優秀賞)、2001年中山道広重美術館(中部建築賞)

こ れ か ら の  
都 市 計 画 と  
ま ち づ くり を  
考 え る ③

村山 顕人 一名古屋大学大学院環境学研究所 准教授

# ストリートウッドデッキの挑戦

## 錦二丁目長者町のまちづくりと ストリートウッドデッキ

名古屋市中区錦二丁目長者町は、第二次世界大戦後に発展した繊維問屋街を中心とする16街区です。産業構造の変化や長引く不況により、繊維問屋の機能が低下し、空きビルや時間貸し駐車場が増加する中、近年、魅力的な店舗や多様なスモールビジネスが進出したり、国際芸術祭あいちトリエンナーレの舞台になった影響で芸術活動が盛んになったり、地区の状況が大きく変化しつつあります。こうした前向きな変化の背景には、2004年3月に地区の地権者・事業者らが設立した錦二丁目まちづくり連絡協議会とそれを支援するNPO法人まちの縁側育くみ隊、さまざまな専門家の活動があります。私の研究室も参加しています。

2011年4月に「これからの錦二丁目長者町まちづくり構想(2011-2030)」がまちづくり連絡協議会によって採択されるまでの話は参考文献<sup>1)</sup>を読んでいただくとして、ここでは、まちづくり構想の実現に向けて展開されているプロジェクトの1つ「都市の木質化プロジェクト」から登場した「ストリートウッドデッキ」(以下、SWD)を紹介します。SWDとは、道路の縦列駐車スペースの一部に設置するウッドデッキのことで、歩道の実質的拡幅、人々が一休みできる「街のリビングルーム」や新たな商業活動の場の創出、自転車の駐輪スペースの提供等に貢献します。

### SWDの構想ができるまで

数名の専門家は、まちづくり構想を検討しながら、公園がない長者町の貴重な公共空間である道路をもっと人間や環境にやさしい形に改善できないかと考えていました。筆者自身は、ポートランドでウッドデッキの歩道を見つけ、サンフランシスコには“Parklet”(道路の縦列駐車スペースを小さな公園に転用し、デッキ、プランター、ベンチ、テーブルと椅子、彫刻、駐輪場などを設置する取り組み)があることを知りました。名古屋まちづくり公社名



図1 木材を活用した街並みのイメージ<sup>2)</sup>

古屋都市センターの「緑ある快適な都心空間のあり方」に関する検討<sup>2)</sup>では、歩道や広場をウッドデッキとする提案をしていました(図1)。

一方、名古屋大学では、環境学研究科・生命農学研究科共同の教育研究プログラムの中で、地域の森林の健全化に向けて都市内での木材利用を推進する「都市の木質化プロジェクト」が始まりました。

2011年2月、名古屋大学の都市の木質化プロジェクトチームと錦二丁目まちづくりマスタープラン企画会議が連携してワークショップ「都市の木質化『どこまでできるか?』チャレンジ:長者町リノベーションウォーク」を開催しました。森林関係者、建築家、住民、事業者、行政、各分野の研究者など合計約60名が一堂に集まり、各業界(森林、林産、建築、まちづくり)の現状と課題について共有した後、長者町を歩き、空きビル内部を見学し、木材の活用方法を提案するというものでした。関係者から高く評価され、当時とりまとめ中だったまちづくり構想に反映されました。

まちづくり構想策定後、地権者や事業者が中心となり、専門家も加わり、さらに行政職員もオブザーバー参加する形で、長者町において都市の木質化を推進するプロジェクト会議が始まりました。建物や公共空間における木材の利用、ベンチの制作、木材を使った子ども向けイベントの開催など、さまざまなアイデアが出される中、SWDへの関心が高まりました。会議を重ね、SWDのコンセプトを検討し、アイデアを関係者に説明していくための文書(構想)を作成しました。プロジェクトメン

バーの建築家には基本設計をお願いしました。

## SWDの制作と実験的設置

都市の木質化プロジェクト会議は、SWD構想の実現に向け、実際にSWDを制作し、長者町の各種イベントの際にそれらを実験的に設置し、本格設置に向けた課題整理を行うこととしました。2012年6月以降、8月上旬の「真夏の長者町大縁会」に向け、SWDの制作と実験的設置に向けた活動を展開しました。



上 | 写真1 SWDの仮置き(制作場所から会場までの間)  
中 | 写真2 真夏の長者町大縁会で活躍するSWD  
下 | 写真3 名古屋センタービルの敷地に設置されたSWD

大学側では、テーブル・椅子タイプと駐輪場タイプの2種類のSWDを制作することを提案し、それらの実施設計と同時に、木材の入手と運搬の手配を進めました。ほかの取り組みの紹介やアンケートの実施についても検討しました。なお、SWDの制作と実験的設置にかかわる経費は名古屋大学リサーチアドミニストレーション室が負担するとともに、制作にあたっては多くの学生と教員、実務家の協力を得ました。

一方、長者町側では、「真夏の長者町大縁会」の企画との調整、制作場所の確保、警察および市役所への説明などの準備が進みました。今回の「真夏の長者町大縁会」では長者町通を通行止めにしなことが判明したため、通行止めにしな状態でもデッキを長者町通に設置することについて、名古屋市役所緑政土木局および愛知県警察中警察署に相談しました。その結果、現行の法律の下では、そもそもSWDの解釈が難しく、設置の許可ができないとの回答を得ました(ただし、社会実験として設置する可能性は見えました)。SWDを制作する場所については、長者町通沿いの吉田商事株式会社の1階スペースを使用させていただき幸運に恵まれました。SWDの道路への設置は当面諦め、「真夏の長者町大縁会」の会場である時間貸駐車場に設置しました(写真1・2)。大好評でした。

その後、テーブル・椅子タイプのSWDは大学内に設置し、駐輪場タイプのSWDは長者町内に保管しましたが、11月の「あびす祭」の際、今度は通行止めになった袋町通に2基の既存SWDと新たに制作したもう1基のSWDを実験的に設置しました。さらに、祭終了後は、関係者のご厚意により、長者町内の名古屋センタービルの敷地内に、5/8の大きさに改造した3基のSWDを一定期間設置させていただくことになりました(写真3)。乾燥過程を経ない水分を多く含んだ大断面の木材で作したSWDは、数年後には、都市における自然乾燥の過程を終え、表面がきれいに削り取られ、建材、家具材などとして二次利用されます。

## 5つの大きな挑戦

以上のように始まったSWDの取り組みには、次の大きな挑戦があります。

- ・地域の森林の健全化に向け、木材を都市の公共空間で利用し、木材循環の一部を担うこと
  - ・都市の中に新しい公共空間を提供し、人々の生活の質の向上に貢献すること
  - ・これからの道路の活用方法について1つのアイデアを提供すること
  - ・これまで一緒に仕事をしていなかった異分野の専門家が協働すること
  - ・SWDの本格設置を可能とする制度を検討すること
- SWDの実験はまだ続きます。

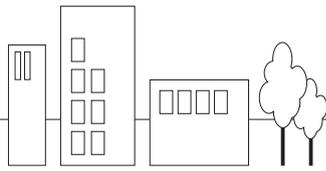
### 参考文献

- 1) 村山顕人(2012)「まちなかサテライト研究室: 錦二丁目長者町まちの会所」(アーバンデザインセンター研究会編著「アーバンデザインセンター: 開かれたまちづくりの場」理工図書pp.111-114)
- 2) 名古屋都市センター(2009)「NUIレポート: 緑ある快適な都心空間のあり方研究」



むらやま・あきと | 名古屋大学院環境学研究所都市環境学専攻・准教授(工学部環境土木・建築学科/減災連携研究センター兼務)。1977年生まれ。2004年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程修了、博士(工学)。東京大学国際都市再生研究センター特任研究員を経て、2006年10月から名古屋大学に在籍。専門は都市計画・まちづくり。2004年日本都市計画学会論文奨励賞受賞。共著に『世界のSSD100: 都市持続再生のツボ』(彰国社)、『都市のデザインマネジメント: アメリカの都市を再編する新しい公共性』(学芸出版社)など

●次回は5月号掲載です。



## まちのなかのみずのながれ

大影佳史 | 名城大学理工学部環境創造学科 准教授

前回に引き続き、かわに関連するお話を。河川空間は、都市内ではオープンスペースとして貴重な場所であるし、さまざまな活用と景観形成の可能性があるはず、そして、いかにして、新たな川沿いの景観、まちの風景が創出できるのか、「まち」と「かわ」と「くらし」を結ぶことができるのか、名古屋のような平野部のまちにおいては特に重要なテーマであろうと述べた。

河川空間については、近自然工法、多自然川づくりと呼ばれる取り組みなど、ブロックやコンクリートで固められた水路を生態系の観点を含め見直し、また、暗渠化されてしまった水路を見直し、まちのなかにみずのながれを、豊かな水辺空間を取り戻そうという動きが見られる。

韓国、清溪川の再生プロジェクトは世界的に知られる事例であろう。日本では、三島の源兵衛川の水辺自然空間の再生や、近隣では豊田市、児ノ口公園の小川の再生など、ほかにも優れた事例があることは、種々の報告などでご存じであろうと思う。

そんななか、筆者も参加する、大学・学生と地域まちづくりとの連携促進を目指す「なごや縁カレッジ」(注1)の取り組みをきっかけに、名古屋中心市街地を流れる堀川と川沿いのまちに対して学生とともに考える機会があった(注2)。

「都市の筈」と題し、まちのなかにみず(雨水)がゆるやかにながれる風景をつくりだす、という構想なのだが、今回はその内容を紹介してみたいと思う。

特に都心部などでは、みずを意識するようなことはほとんどないのではないだろうか。みずへのかまえを見直してみよう。みずのながれのある風景をつくりだす、みずの来し方と行方というものを意識すると、もう少し生活を豊かにする新たな可能性がみえてくるのではないかな。そんな思いからである。

以下、「都市の筈」構想提案の内容を。

### 背景—堀川について—

本提案は、名古屋市の中心市街地を流れる堀川およびビル群の集積する納屋橋周辺地区を対象としたものである(写真

1、2)。堀川は、元杖樋門(庄内用水頭首工取水地点)から始まり、名古屋城の西から納屋橋地区を通り、名古屋港へ続く延長16.2km、流域面積51.9k㎡(うち新堀川:24.0k㎡含む)の人工河川であり、かつて名古屋の城下で物資輸送のため、熱田と名古屋城下を結ぶものとして設けられた。現在も名古屋市の中心市街地を流れる重要な都市内河川であるが、都市化の過程で工場や人口が増加し、その不適切な排水の経緯もあり、昭和10年頃に水質が悪化。ゴミの不法投棄も重なって、昭和41年には汚濁はピークを迎えたと言われている。

人工河川であり源流がない。熱田地区から名古屋港まで、高低差があまりないために川の流れが生じにくい。潮の干満の影響を受け、逆流・停滞も生じている。そんなことも影響し、ヘドロが堆積し汚く臭い川といった印象が拭えなかった。

近年は、存在が見直され、さまざまな改善のための取り組みがなされている。平成元年3月に策定された「堀川総合整備構想」では、治水の整備、水辺環境の改善、沿岸市街地の整備、ゾーン別の整備イメージを定めている。また、「マイタウン・マイリバー整備計画」では国土交通省による事業で昭和63年に整備河川第1号に指定され、周辺市街地と共に河川改修が進められてきた。また水質浄化対策として、木曽川導水事業、ヘドロの浚渫、エアレーション実験、庄内川からの試験通水、庄内川からの暫定導水、新規水源の活用など検討、実施されており、市民による水質浄化に関する運動などの機運



上 | 写真1・2:堀川の様子



も高まり、さまざまな活動が見られるようになった。

これらから、以前に比して水質は改善してきたものの、現在のところまだきれいな川とは言い難い状況である。また、現在の堀川流域エリアは合流式下水道となっているため、多降雨時など一定の水量を超えると「雨水吐」と呼ばれる穴から、雨水とともに生活排水も河川に直接放流されてしまうという問題も存在している。これも水質の浄化を妨げる要因のひとつと考えられる。

### 提案の内容－「都市の筧」－

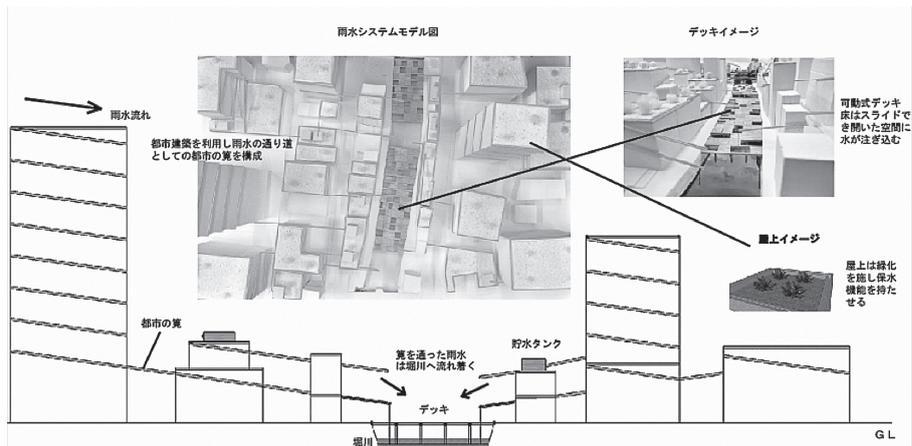
雨水(建物の屋上に降る雨水)を活用し、屋上緑化などへの有効利用を図るとともに、集めた雨水を堀川へと直接流入する仕掛け(都市の筧)を提案する。

具体的には、河川周辺の建物の屋上を利用し、雨水を貯め、まち全体に筧をめぐることで雨水を堀川に導入する(写真3、図1)。屋上緑化も併せてまち全体に保水機能を持たせる。ある程度水を貯蓄できるよう、また屋上緑化にも利用できるよう逐次貯水タンクを設ける。降った雨や貯めた水は筧を通して堀川へ流入させる。

現在の雨水に対する考え方は、屋上に降る雨水を速やかに下水管に流し込み敷地外へ排出するというものであるが、これを見直し、雨水をできるだけまちの中へ留める、ゆっくりと時間をかけて堀川へと流入する仕組みをつくる。これまで、まちの暮らしの中でほとんど意識されてこなかった、みずの行方を「都市の筧」として視覚化し、まちのなかに、ゆるやかなみずのながれをつくりだす。まちの風景から人々の心・意識の変化を促すことを意図している。

ここでは、貯水タンク、ビルの高さや屋上の保水等を利用することで水の移動に時間差をつくり出している。

堀川への流入においては、水中への酸



上 | 図1:「都市の筧」  
左 | 写真3:「都市の筧」コンセプト模型

素供給という面からの水質向上、周辺エリアにおいては、ヒートアイランド緩和なども、幾分期待できる。

本構想案は、堀川自体に源流がないこと、河川周辺のまちの構造、建築およびインフラにおける雨水、下水処理システムに着目し、まちのなかでの雨水の行方を建築的に視覚化・再構成することにより、河川の浄化につなげる、河川空間を一変させる、そしてまちのなかにみずのながれる風景をつくりだすことを考えたのであるが、実現ということを考えるならば、まだまだ構想の域を出ず、相当なフィジビリティスタディが必要であろう。仮に、納屋橋地区の数街区を設定し、昨年度の降水気象データ、街区の屋上面積などから、簡易なシミュレーションを行ったところ、少なくとも雨水吐からのオーバーフローを減少させる効果があることは認められた。

さてこの構想、突拍子もない実現不能

なアイデアのように感じられるだろうか。ぜひご感想などいただきたいと思う(現在のところ、実現の計画があるわけではありません…)

注1:詳しくは「名古屋都市センター」のホームページをご覧ください。  
注2:提案は2010年名古屋で開催されたティンバライズ建築展および、なごやフィールド緑カレッジにて発表された。

参考:大影佳史・清水栄治、都市の筧～名古屋堀川周辺エリアの水景構想提案、日本建築学会大会(関東)建築デザイン発表梗概集、pp102-103、2011年8月



おおかけ・よしふみ | 京都市生まれ。京都大学大学院工学研究科建築学専攻博士後期課程(～1998.3)。京都大学大学院工学研究科助手(1998.4～)。博士(工学) 京都大学(2002.11)。名城大学理工学部講師(2003.4～)。同准教授(2007.4～)。一級建築士。作品に「京都大学総合博物館(南館)」「愛知万博瀬戸会場竹の日よけプロジェクト」。共著に『都市・建築の感性デザイン工学』『建築思潮05(漂流する風景・現代建築批判)』など。建築・都市・環境デザイン

●次回は4月号掲載です。

## 「日本の省エネ政策と断熱材」と 「木造耐火建築物における石膏ボードの役割」について

JIA塾が1月10日(木)に開催されました。JIA塾は最近の話題の建築や命題を選び、研究者やメーカーに講演や実演を依頼し、会員や一般社会人と共に学ぶ研修会で、静岡地域会が継続している事業です。

本年度第3回となる今回は、まず①「日本の省エネ政策と断熱材」というテーマで、前半は、現場発泡硬質ウレタンフォームの含有フロンからノンフロン製品への移行、代替フロンB種1のJIS規格からの削除、住宅用現場発泡硬質ウレタンフォームはA種のみとなること、などについて説明がありました。従来使用していた代替フロンはオゾン層の破壊物質ではないものの温室効果(GWP=1000)が高いとされていましたが、ノンフロン製品はGWP=1.0とオゾン層の保護と地球温暖化防止の両立が可能となっています。

後半は国の改正省エネ法の解説があり

ましたが、同様の勉強会が各地で行われていますので内容は省略します。最後にノンフロン化の現状と課題として、ノンフロン品はフロン品に対し断熱性能、浸透抵抗、接着性が劣っていましたが、今回説明のあったA社の製品は、気泡の壁面が強固でかつ独立した気泡を90%以上有し、各性能が長期間継続し、透湿率が良くなった結果、結露の防止に利するという性能改善が図られています。ゼロフロンERは断熱材の厚さを薄くできるメリットもあるとの説明でした。

続いて、②「木造耐火建築物における石膏ボードの役割」についての講演がありました。初めに「公共建築物における木材利用促進法」の解説があり、この法律は主として農林水産省の主導で制定され、低層の公共建築物については原則木造化を図ることが定められ、今後木造建築が多くなるということでした。

次に、木造耐火建築物の機能、優位性について。外国では高層の木造建築が建てられていますが、わが国では火災による木造建築物の脆弱性が指摘され、1959年の建築学会で木造禁止が決議され、木造に関する研究が進まず技術的な普及がありませんでした。確認申請時には3階建て、または500㎡以上の木造建築は構造計算書の添付が必要で、勢い2階建て、または500㎡以下の木造建築が主となり、3階建て以上は他の構造と、長らく木造で建築されてきませんでした。

しかし地球温暖化防止に対する木材の役割や、それを守る山林の荒廃、林産業の衰退などの社会環境の変化を受けて、建築基準法の改正や最近の実物火災実験で、木造耐火建築物の可能性が示されてきました。民間においても木造耐火建築物は、鉄筋コンクリートや鉄骨構造などほかの建築物に比べ税制上の建物償却年数の短縮ができます。また、新築住宅において、省令準耐火構造とすることにより保険会社のT構造に該当し火災保険料が安くなるメリットで、都市部のマンションや高齢者福祉施設などの用途に使用範囲が広がっているというお話でした。

約2時間の講演で、私にとって幾つかの新しい知識を得ることができ、今後の設計に生かしたいと思います。

終わりに、研修会を担当して下さった(株)野村商店様、(株)稲葉商店様に感謝を申し上げます。



研修会の様子

杉山貞利 |  
静岡企画設計一級建築士事務所



## 雨にも負けず — スケッチ旅行記 —

昨年の11月17・18日、京都府南丹市美山町にあるかやぶきの里（平成5年、重要伝統的建造物群保存地区に指定）と、兵庫県にある丹波篠山城のスケッチ旅行に行きました。参加者は、JIA 愛知美術サロンのメンバー6名とJIA 愛知会員の森鉦一さんの7名で、存分に楽しみました、といきたいところですが、両日とも雨で、参加者の皆さんには大変にご苦労をかけました。それでも皆さんは必死にスケッチを試みられ、さすが！とつくづく感心させられました。

（吉川法人 | 吉川法人+都市建築デザイン室）



美山村は、山に囲まれた30戸ほどの集落である。その半数近くが茅葺きの家として現存している。山懐に抱かれた村の雰囲気には誰もが絵心を動かされるが、特に集落の中央にある古い赤い陶器のポストが微笑ましく、描いてみたいと思った。

神谷義夫 | 神谷義夫建築設計事務所



数十軒の茅葺きの民家が、山裾を縫うように横に伸びる三本の道と、それらを縦に繋いで街道にぶつかるメイン道路に沿って点在している。スケッチは縦のメイン道路の付け根あたりから背後の山を仰ぐようにして描いた。

森 鉦一 | 黒川建築設計事務所



昨年末テレビで、懐かしい風景が流れていた。晩秋の朝もやの中、赤いポストの脇を郵便配達バイクが茅葺きの里へ入っていく。年賀状を早めに投函するようにとのCM。今回、絵にしたのと同じ構図であった。

山田正博 | 建築計画工房



初日はあいにくの雨で、下見で終わりましたが、宿が茅葺の合掌造りで、離れの1棟貸し切り。囲炉裏のある大広間で里の料理に舌鼓の後は、諸先輩方とカラオケのひとつで懇親を深め、良い思い出となりました。

田中英彦 | 連空間都市設計事務所



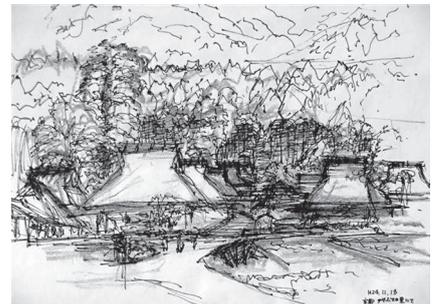
朝晴れていた空が曇り、雨が落ちてきた。雨粒が画面を叩き、思わぬ効果が特に民家の屋根に表現された。“美山なる茅葺きの里 時雨けり”

栢本良三 | 錦建築設計



旅行前にはまだ秘境の雰囲気が残っているかと期待したが、意外にも観光地化されていた。それでも初日は雨で人出が少なく、多少それらしい空気を味わうことができた。日本はおろか世界で秘境が消滅した感がある。

梶田英夫 | 梶田建築設計事務所



茅葺きの里は、住民の人たちが自分たちで資金を出し合い、会社を組織して、村の運営・諸施設の運営をしている。現代建築の諸問題の解決策が眼前の風景の中にあり、それを表現しようと試みた。

吉川法人 | 吉川法人+都市建築デザイン室



## 第3回「近代建築における文明と文化」

講師：池田武邦氏（日本設計名誉会長、JIA 名誉会員）

昨年12月15日（土）昭和ビル9階ホールにて開催した。参加者は43名（JIA29名、士会3名、一般6名、学生5名）で、幅広い世代で会場が埋まった。

池田氏は海軍兵学校に入り、20歳の頃には海軍の戦力がほぼ全滅していくマリアナ、レイテ海戦、大和とともに沖縄への特攻に臨み、火傷を負いながらも5時間余り漂流し、運よく救助された方である。

初めから建築家になろうと思っていたわけではなく、戦後の人生を新しく選ぶ中で建築を選ばれた。幼年期から青年まで過ごした住まいは従兄山本拙郎（早大）氏が設計した。潜在的に自身の精神基盤に大きく影響していると吐露された。

### 「歴史に学ぶ」

今設計する建物が、未来に向かって影響を与える空間をつくることから、未来に対してどうあるべきか、自分はどこから歩んできたのか、過去を知るべきである。

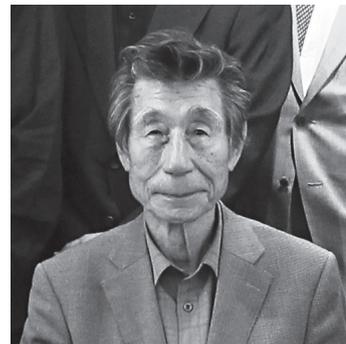
具体的に息子（昭和）、池田氏（大正）、父（明治）、祖父（江戸）と年表にプロット。父の時代からは戦争が当たり前の時代であった。今は平和が当たり前と思っているが、隔世の感がある。

今から思うと、江戸時代は理想郷と思える。鎖国して物資は国内で循環。自然の恵みを得て暮らし、自然を壊すと成立しない。最近エコを強調するが、江戸時代にはすでに具体的にやり遂げていた。今のよう

に使い捨ての社会ではなかった。江戸の頃の風景画と同じアングルで現代の場所を並べてみると、自然の豊かさ、美しさを壊していることがよく分かる。日本の文化は、草、花にも神が宿っていると、自然を大事にしてきた。陸と水がコンクリートで遮断された護岸は洪水を防げるが、生物が息できず、浄化作用もない。



会場の様子



池田武邦氏

明治以降、江戸の封建社会を否定すると共に文化も捨て、西欧の文明・文化を取り入れ、近代化を図ってきた。

### 「超高層ビル」

霞が関ビルは、コンピューターが東大地震研にも入り、日本でも超高層ビルが可能な時代を迎え、技術が確立してできたものだ。文明はどんどん発達し、超高層を可能にしたが、草木に至るまで自然を大事にする日本の文化は軽視された。

文化を大事にする手段として、文明がある。超高層ビルの目的は、都市の真ん中に緑の空間を確保するために低層部に緑を計画することであり、それが手段となる。都庁舎も建物は2ブロックで、1ブロックは緑の空間とすべきと提案したが、実際は、3ブロック共建物で設計された。残念なことに、新宿はビルで埋まってしまった。

### 「ハウステンボス」

長崎県は山を削った岩、土砂、ゴミで大村湾を埋め立てようとした。海軍の頃から佐世



講演後、池田氏を囲んでフリートーク

保に帰るときに立ち寄っていた、きれいな大村湾の生態系が壊されることから、そこを買い取ってハウステンボスを計画した。

水と陸の境目は、大変デリケートなところであり、いわば目に針を刺すようなことはできない。ハウステンボスは自然環境を守る工夫を徹底的にした。

### 「邦久庵」

大村湾に面する木造萱葺きの家。囲炉裏のある部屋から広縁越しに海を眺められる。池田氏が歩んでこられた人生を考えると、大変素晴らしい魅せられる住まいである。

### 「日本の文化を見つめ直して」

最後に、明治以降、日本は近代技術文明を追い続けて世界五大強国に入ったが、太平洋戦争でベシヤンコになった。その後復興してきたわけだが、自然を神とした日本の文化をしっかりと見つめ直さないと日本の建築はおかしくなる、超高層から萱葺きの家に移り住んだのは、自身の反省でもある、と締めくくられた。

江戸時代の功と罪を説明される時間はなかったが、自然を大事にしてきた日本の文化を見つめ直し、技術一辺倒で考える建築から、これからの未来に残していける建築を考える機会を大先輩から直接得られたことに感銘した。



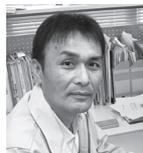
高嶋繁男 | 黒川建築事務所

## 「常に考える！」未来工業(株)創業者 山田昭男氏

1月27日(日)、講師に未来工業(株)山田昭男氏を迎え、各務原市民文化センターにてJIA 岐阜地域会「講演会2012」を開催。前日より雪が10cmほど積もるといふ悪天候の中、市内外より60人ほどの方々に参加をしていただきました。JIA会員以外の方が多数を占め、JIAの活動を少しでも多くの方に知っていただく良い機会となりました。

講演会場は、山田氏の第一声で山田ワールドと化し、一瞬にして聞く人の心を引きつける力は、さすがカリスマと呼ばれる経営者、その一言につきる講演会でした。

以下、4人の方の感想を掲載させていただきます。



西川光広 | シーテック21

●未来工業と聞けば常識外れのとんでもないことをやる会社だというイメージが、テレビなどで一般に広がっています。81歳とは思えない機関銃のような口調でまくしたてられた未来工業独自ルールの数々は、我々には不可能に思えるモノばかりでした。しかしその常識外れも、山田さんの話を聞いていると、妙に納得させられてしまいます。ヨソがやらない、できないことだから儲かる。差別化なくして企業の存在意義なし…。

そうは言われても、そのまま実行に移そうと我が社に置き換えてみると、やる前から挫折します。この差は何なのか。きっと自分の考えが浅いのでしょう。革新的な取り組みにつきものの障害を、一つひとつ乗り越えるため、考えに考えて解決していくことができないのです。では、自分のやっている努力というか差別化というものは

何なのか。私には何も考えずに、ヨソよりも長時間働くことくらいしか思いつきません。いや、話に聞くとウチより遅くまで働いているところもあります。結局、普通の会社は我慢大会をやっているに過ぎないのかもしれない。

講演会の後半、話はどんどんヒートアップしましたが、「人のせいにするな、経営者として責任持って考える」とどやされた気がします。演題であり、未来工業のスローガンである「常に考える」を胸に経営していきたいと思いました。

武藤 孝 | ㈱ムトー

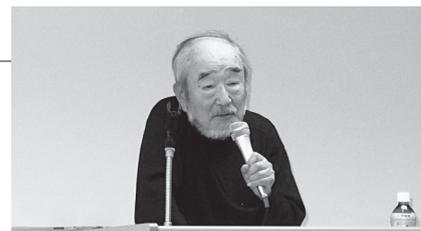
●「報連相の禁止・ノルマの禁止・残業の禁止」など、日々当たり前のようにこれらを行っている私にとっては、一見それで会社が成り立つのだらうかと驚きましたが、「定年70歳・育児休暇3年・作業服は自由・提案書を出したら500円」など、社員をやる気にさせる“餅”の発想は大変理にかなったものであり、だからこそ成功されているのだと納得させられました。

しかし、私が何よりもすごいと感じたのは、その実行力です。分かっているもなかなか常識や今の環境から抜け出せない人がほとんどではないでしょうか。常に考え、他社とは違う「差別化」を図るために思いついたことを実行していることが、社員の幸せに繋がり、それが会社としても成功に繋がるという、プラスの連鎖を生みだしている本当に素晴らしい企業であると思いました。

また、ユニークな人柄、終始軽快なお話しぶりで、とても楽しく聞かせていただくことができました。

藤本実咲 | 菊水化学工業(株)

●講演会は 大変に楽しく興味深いものでした。日曜日なのに女性とも逢わず、大勢



講演する山田昭男氏

の人が集まってよっぽど暇か? というジョークから始まる最初のキャッチが実にうまい。「常に考える」「他人と差別化する」「いいと思ったことは恐れずに実行に移す」「ダメと思ったらすぐに戻す」、大切な4つの事柄を再認識させられました。

「人材と人財」、人は材料でなく財産であるという考え方も 一般的にはよく聞く話ですが、山田氏の考え方・実行性は大変納得できるものでした。誰かに言われたからではなく 自らの意思で自発的に考える。自立した個人個人が集まる組織は強く魅力がある。

素敵で貴重な時間でした。ありがとうございました。 武藤基史 | 文化シャッター(株)

●山田様は、テレビなどのメディアで幾度か拝見したこともあり、このたびの講演は大変興味深く、拝聴させていただきました。

山田様の会社経営に対する考え方の中で、社員をコスト(人材)でなく、財産(人財)として扱うというお話に、大変共感しました。また、経営者としてどうやって社員をやる気にさせる“餅”を与えるかという話を聞き、社員のやる気を引き出すさまざまな餅が未来工業様にはあり、それらが社員の能力を引き出し、ひいては会社の業績を押し上げているのだと感じ、弊社には未来工業様のような餅がほとんどないことに気づかされました。目先の業績を意識するあまり、なかなか与えられる餅の量や種類を増やせませんが、徐々にでも増やしていくべきだと感じました。

このたびの講演を、今後の仕事において生かしていけるよう努めていきたいです。ありがとうございました。

平光健志 | 川崎設備工業(株)

## 建築写真とカメラの話

12月7日（金）に建材研修会を開催し、JIA 三重の賛助会員である建築写真家、土面（とのも）彰史氏から建築写真を撮影するときのポイントなどを教わった。

私の事務所では建物の完成写真はプロに依頼することになっているが、それは自分で撮ったものと比べて出来栄に雲泥の差があるからである。同じ場所から同じ方向を撮っているのにもかかわらず、明らかに違う写真に見える。カメラの性能が悪いという言い訳だけでは解決できない「腕の差」の原因を知ろうと真剣に聞



土面彰史氏

いた。

そもそも撮影に取り組む姿勢の違いを思い知った。「建築写真は条件を整えなければ良いものが撮れない」「建築写真は晴れの舞台なので最高の条件で撮りたい」ということだが、その条件とは何かという答えが「良い天気であることが大切」ということだった。

建築以外は補助光を使用することができが、風景写真や建築写真は光をコントロールすることができない。

建物の顔である外観写真をとる場合は、陽があたる時間と角度を調べて一番良いアングルを探すのだそうだ。南中高度や太陽のコースは季節によって違うし、建物の正面がどの方角であるかによっても条件は変わってくる。

一年中で一番きれいに写る方角は？とのクイズの正解は、夕景のことも考慮すると南西もしくは西だそうだ。南向きの家は夏至のときに影になるので9月から3月がポイントであるとか、軒の出が深い家は冬至の日がきれいに写る、北向きの家は夏至

の朝方もしくは夕方くらいしか上手く写らないなど、自然条件による基本的な知識を得ることができた。また、レンズの選び方については、肉眼に近づけると良いということで、画角と距離感から30mmくらいが理想だが、24mmの広角レンズ内で撮影できれば良い写真になる、と教わった。

さらに、室内撮影のポイントやカメラの話など、一度では覚えることができないほど専門的な話もたくさん聞くことができたが、まずは基本的なポイントを覚えて、すぐにでも実践で試してみたいと思ったのは私だけではないと思う。

普段、どこに旅行に行っても撮った写真に人が写っておらず、面白い建物や風情のある風景、ときには建物のディテール部分だけを集めていることもあるほど建築好きなので、今回仕入れた知識をフルに生かして、良い写真を撮影してみたいと思っている。

豊田由紀美 |  
Y's建築設計事務所



光の当たり方で建物の見え方が違う（写真はいずれも土面氏提供）



「ARCHITECT」表紙シリーズ

## 「伝統を味わう旅」(2012.4～2013.4)を終えて 旅の終わりに

かつて「ARCHITECT」の表紙の写真を興味深く見たことも、まして目次のページの文章などあまり読んだことがないという私が、12カ月の連載のお話を二つ返事でいとも簡単に引き受けることとなったわけですが、その時点では、重要伝統的建造物群保存地区を巡るというテーマも、併せてUIA千人茶会でお世話になったお菓子処を訪ねるなどというアイデアも何も決めていませんでした。そもそも原稿依頼の折に送っていただいた過去の参考文章も結局読まずじまいで、思うままに表題を決め文章を書き始めるという自分の性格からして至極当たり前なスタートを切ることになりました。

重伝建と菓子処を巡るというテーマを決めてからも12カ月分のデータがあるわけでもなく、この先どのような展開になるのかという想定すらもしていませんでしたが、今振り返ってみるとよくぞ続けられたと思います。

連載を始めて半年くらいたったあたりから、役員会や講演会などでお会いする方から、「ARCHITECT」の連載を読みますよと声を掛けられたり、三重で開催された東海支部大会では、奈良から出席された会員の方が「ARCHITECT」の表紙の件でわざわざ私を探して訪ねていらしたりということもありました。奈良を訪れた際に、以前から気になっていたその方が設計された建築を見学したことを文章に書かせていただいたことがきっかけ

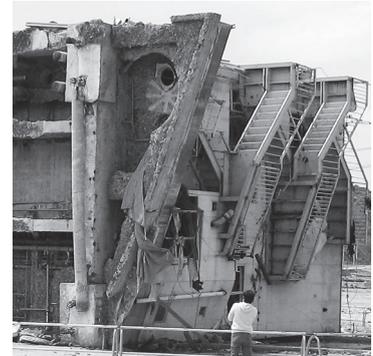
でした。こんな出会いがあるとは想像すらしていませんでした。東海支部以外でも「ARCHITECT」を、ましてほんの短い文章を読んでくださっている会員がいらっしゃるということにも驚かされました。

豊橋の富田正行さんのお誘いで、東北・石巻の仮設住宅でもりがちになっている被災者の方々に一服のお茶を楽しんでいただくというボランティアにも、藤巻志伸さんと一緒に参加しました。私も一服たてさせていただきましたが、仙台の菓子処で購入した季節を表現した茶菓子の銘と一服のお茶は、震災を一時忘れさせてくれるもののように感じました。茶会の翌日、被災地を回りましたが、右上の写真は倒壊した建物を前に佇む私です。神戸でも経験したとはいえ、形あるものの哀れさを思い知らされる出来事でした。

大徳寺を訪れたのは真夏で、異常に湿度の高い無風の日。本堂の下陣や脇の間は多くの人で埋め尽くされており、利休の法要がもう少し長引けば人いさきで気を失うところでした。今年は平成待庵をぜひとも訪れたいと思っています。

京都は2回訪れていますが、産寧坂では初めて舞妓さんを間近で見ることができました。産寧坂のパノラマ写真と舞妓さんの写真も結構気に入っています。

実は、半数近くは夫婦で旅をしました。お互い、晴れ男、晴れ女を自認する2人ですが、旅の8割近くが雨。虚数「i」の二乗はマイナスの世界。しかし雨宿りで入る喫



津波で横転した建物の前で佇む筆者

茶店やレストラン、食堂は伝建地区らしく、こちらの望むものを提供してくれます。

茶菓子処では妻の出番で、季節ごとに和菓子を選んで買い求める彼女にとっては至福の時間だったことでしょうか。家に帰って早速いただく一服のお茶と茶菓子は、旅の疲れを癒してくれます。

JIA会員の平均年齢をご存じでしょうか。私と同じ58歳です。決して若いという年齢ではありません。古きを訪ね、良きものを味わうというのもいいのではないのでしょうか。

この1年、訪れた先々で見聞きしたことを綴らせていただきましたが、今後は現実の修理修景に向けての勉強と実践をしていかなければなりません。この経験を少しでも生かせればと思っています。

1年間ありがとうございました。

塚本隆典 |  
塚本建築設計事務所



舞妓さん



産寧坂

# 建築家と地元を歩く WEB マガジン「Chu-bura」がオープンしました!

## www.chu-bura.com

本誌2012年10月号でご案内したWEBサイト「Chu-bura」が3月1日オープンしました。35名の建築家のご参加をいただき、各事務所のHPやブログへのリンクが設けられています。また、参加建築家がレポーターとなり、建築家の目を通した各地の地域情報が社会に発信されます。さらにJIAのほか「あいちトリエンナーレ」や「ぺちやくちゃんないと」など他団体のイベントや、参加建築家が開催するオープンハウスなどの情報も見ることができます。

「Chu-bura」の目的は「建築家により社会に浸透し、親和すること」。

その先には建築家の職能がより社会に生かされ、活動のフィールドをより広くするための下地づくりがあります。同時に参加建築家のPR、事務所HPへのアクセスアップ、業務依頼にもつながります。今後、多様な地域情報、イベント情報、個人ブログなどの更新によりサイトを活性化していきます。

### ●サイトから発信される情報

#### ○地域情報

「Chu-bura」の本体となるコーナーです。建築家がレポートする地域情報であり、新着4記事がトップページに掲載されます(過去の記事はアーカイブにて閲覧可能)。静岡、愛知、三重、岐阜4県のいろいろな街の表情を「観光」「歴史」「文化」「伝統」の категорияで分類し、右上の県名のボタンをクリックすると関連記事が抽出されます。読者は一般のタウン情報とは違う視点でのレポートに接することで、新たな発見をしたり、興味を持ったりすることになるでしょう。また、レポーターとなる建築家の人柄やものの見方に接することにもなります。世に存在する建築家検索サイトとの違いはここにあり、建築家の人間性も感じることができるはずです。記事末尾にはレポーター建築家の紹介と個人ページへのリンクが設けられ、より詳細な情報を得ることができます。建築家個人が発信する記事が蓄積することで、個人のみならず総体としての建築家およびJIAがより社会に親和することを目指しています。

#### ○告知

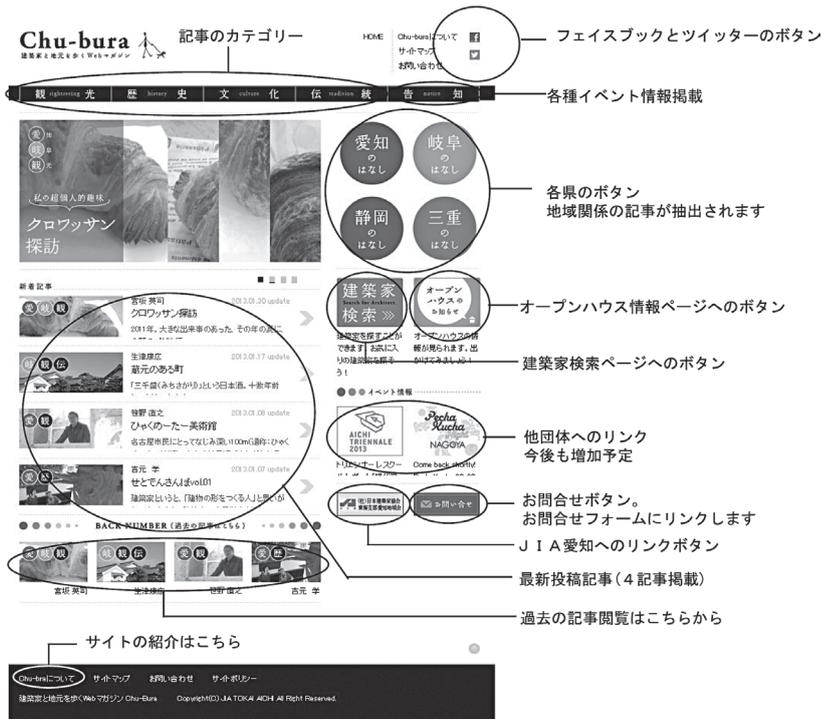
メインメニューの右端に「告知」のボタンがあります。JIA主催のセミナーや展覧会をはじめ各種団体のイベントを紹介されます。一般の情報誌ではなかなか取り扱いされない文化的な行事など、「Chu-bura」ならではの取り上げ方をします。また他団体の情報を発信することにより関係づくりのきっかけにもなり、幅広い人間関係の構築にもつながります。

#### ○建築家検索

参加建築家の一覧が表示され、個人ページにアクセスできます。個人ページでは作品画像のほかプロフィールが表示され、事務所のHPやブログへのリンクが設定されています。このコーナーでは各建築家に個別のブログが設けられ、更新するとトップページにタイトル文が掲載されます。このページは投稿記事で紹介されるレポーター欄からも直接アクセスできます。ここが従来の建築家カタログの機能となります。

#### ○オープンハウス情報

参加建築家の事務所で行うオープンハ



Chu-buraのトップページ



トップページの「新着記事」(または BACK NUMBER) をクリックすると...

ウスの情報を発信します。「Chu-bura」へ来訪者する一般の方にオープンハウスの情報が目にとまることにより、建築家の家づくりを少しでも知っていただけるとともに、建築家への距離感が縮まることにもなります。

### ○イベントコーナー

JIAのほか、東海4県を拠点とする各種団体への窓口となるリンクボタンを設定しています。「Chu-bura」は幅広く他団体との関係を持ちながら、建築に限定しない、社会にとって有益な情報を発信するスタンスを取っています。営利団体においてもその業務が地域文化や環境、伝統保全など社会的にも有益と判断されるものは、紹介していく予定です。

### ○バナー

サイトの最下段に設けられたバナーに「Chu-bura」の紹介文を掲載しました。ここでサイトの運営主体がJIA愛知住宅研究会であることが紹介されています。また、支援していただいた協賛会社様の紹介とリンクが設定されています。

### ●Chu-buraが目指すもの

建築家カタログVOL.6発行のため設けられた委員会ですが、創刊から15年を経た今日、情報環境は大きく変化し、消費者の情報収集手段は多様化しました。中でもWEBは日々そのウエイトを増しており、かの米ニューズウィーク誌が紙媒体を廃止し電子版のみにしたことを見てもその動きは顕著に表れています。またフェイスブックやツイッターに代表されるSNSが浸透しているように、ネット上のコミュニケーションが盛んになり、そのツールは社会を変えるほどの力を持つようになりました。建築家カタログは、建築家の職能や人を発信するツールとして当初は成果を上げていきましたが、発行を重ねるごとに徐々に反応は鈍くなってきました。今回カタログVOL.6に代えWEBサイトを設立したのも、そのような社会背景があります。

「Chu-bura」は前記のように建築家の紹介という従来のカタログ機能のほか、建築家をリポーターとする情報発信、ブログによる個人情報発信、他団体との連携など、サイトの血流となる情報更新を行います。

このサイトはJIAおよび建築家の職能を社会に周知する活動であり、浸透・親和へのアクションです。また、各建築家がより多くの活動の場を得るための下地づくりでもあり、結果、建築家への設計依頼のみならず、その職能を活用した幅広い活動につながることを目指しています。

### ●参加建築家・協賛会社募集中

サイトは定期的に新たな投稿記事を掲載し、情報を蓄積していきます。また他団体の連携を広め、多様な文化的情報を発信し、「Chu-bura」がこの地域におけるひとつの情報発信源として社会的な認知を得るよう、SNSの活用を含め運営していきます。

一方で参加建築家に対しても、ローテーションによる記事投稿に縛られることなく、随時記事を募り、個人ブログの更新をお願いします。「Chu-bura」への積極的な個人参加が業務依頼につながり、それがサイト自体の活性化、アクセスアップという相乗効果を生むよう運営を行います。

そのため、より多くの建築家の参加、支援していただける企業様が必要です。「Chu-bura」をご覧いただき、ぜひともご参加、ご協賛をお願いいたします。お申込み、お問合せは下記までご連絡下さい。



トップページの「建築家検索」をクリックすると…



さらに顔写真をクリックすると…



Chu-bura運営委員会  
委員長 生津康広  
(生津建築設計室アーキハウス)  
TEL/0561-51-5002  
FAX/0561-51-5011  
E-Mail/namatsu@archihouse.jp

## 福島の実況

# 原発問題をはずして新生活はない 建築家は目をそらさず行動しよう

JIA 福島 阿部直人建築研究所 阿部 直人



家屋の被災度調査に向かう

2012.06.18 JIA 福島で除染に関する活動を開始した当時、私は事務所のHPに次のようなブログを載せている。

『とうとう福島の大葉8町村の除染の第一歩が始まろうとしている。以前お付き合いのある測量事務所から相談があった。環境省からの要請で、浪江町の1万2千戸を超える除染作業のために事前に家屋の被災度調査をしてほしいという。除染の効果や予算云々についてはさまざまな疑問があるところではあるが、建築士にしかできない仕事であり放射能を考えると他県の人には受けないであろう(実際は他県からも応援協力してもらっている)。我々がやらないと始まらない。JIA 福島地域会にはかり、建築士会にも声をかけて災害支援として協力することに決定した。

事前にホールボディーカウンター検査を受け、第一陣として6月18日浪江町に入った。

今まで何度も通った国道288号線(通称ニイッパー)だが、田村町都路(みやこじ)あたりから人気なくなり、阿武隈山地を太平洋に抜ける山道を走っていると検問所で止められた。そこからが20キロ圏内、そしてほどなく警戒区域の浪江町

に入った。

なんとも不思議な気持ちである。町の中はとにかく静かで、地震被害がそんなにひどくないところでは今までと変わらない町を見ているようだが、JR常磐線の線路は赤く錆び付き雑草で埋まり…人がいない。犬猫さえも見かけなかった。

以前、ある大臣が失言をしたらしいが異様な風景であることは間違いない。

被害の大きな浪江駅前には3.11で時間が止まってしまったかのようで、倒壊寸前の店の商品が歩道に散乱したままで、駅前広場の街灯の大きな灯部が落下したその隣の大きなたて看板に「安心して暮らせるやさしいまち」というスローガンが書かれていた。何人の一時帰宅者がこの看板を見上げ悔しさを覚えたことだろう。

歩道のアスファルトを突き破った伸び放題の雑草が、確実に時間が過ぎたことを教えていた。』

2月5日、JIA 建築セミナーにて「宮城と福島の問題点—現地からの提言」というテーマで宮城の建築家、手島浩之氏とセミナーを行ったが、震災から2年が過ぎようとしている今、復興のスピードや方向

にだいぶ違いが出てきていると感じる。

福島の場合は、地震や津波よりもはるかに多くの原発からの避難者のために、私たちは仮設住宅建設に携わった。次のステップである復興住宅の建設に移行するにしても、どうしても原発の話にならざるを得ない。なぜなら、復興に向かってヒアリングをしても被災者から出てくる話は原発との関係であり、それを外して会話は成り立たない。福島の被災者にとっての「原発」は、宮城の被災者が「津波」を考えるのと同じように、それを意識して新しい生活の道筋を立てるしかないのかと思う。

昨年11月には、横浜でのJIA 建築家大会においてシンポジウム「原発ゼロ、安全な暮らしを求めて—フクシマからの提言」を開催。全国のJIA 地域会で原発を抱える鹿児島をはじめ石川、静岡、そして青森まで、8県のJIA 代表の方に集まっていた。

そこでは原発反対という話ではなく、今起きていることに対する問題を共有し、それについて建築家がどうかかわるべきかを皆さんと共に考えようとした。それぞれの地域で悩んでおり、厄介な問題ではあるが、建築家はそこから目をそらさず、行動によって何かを変えなければならぬという気持ちを共有できたことは大きな成果であったと思う。



左 | 雑草で埋まったJR常磐線の線路  
中 | 浪江町。駅前の街灯の灯部が落下している  
右 | ものが散乱し、雑草が伸びたままの歩道

# JIA TOKAI ARCHITECTURAL PRIZE FOR HOUSING PROJECTS 2013

## 第1回 JIA東海住宅建築賞2013

本賞は、愛知県・岐阜県・三重県・静岡県東海4県につくられた住宅(専用住宅・集合住宅など)を対象とし、各自が定めたテーマに対して特に秀でた住宅に対して贈る賞です。今日、建築家としての社会的な意義が問われていると思われます。現代建築に求められるのは、制度や経済に合理的なだけの建物ではなく、個々人の感性に訴える日常的な空間ではないでしょうか。社団法人日本建築家協会東海支部では、東海における居住空間の質及びデザインの向上に貢献すべく、本賞を創設しております。プログラム・空間構成・ディテール・環境への配慮・工法などに始まり、様々なテーマのなかから優れた住宅を募集します。

### 対象

1. 施主、設計者、施工者に対して賞を贈ります
2. 専用住宅・併用住宅・戸建住宅・集合住宅等(新築・保存・改修)
3. 作品は最近3年以内に竣工したもの  
(2010年4月1日から2013年3月31日までに竣工したもの)
4. 確認申請が必要なものは検査済証の写しを提出のこと
5. 東海4県につくられた作品に限る
6. 他の賞を受賞した作品、雑誌等に発表した作品でもよい
7. 現地審査、施主のヒアリングが可能な住宅
8. 応募点数は自由
9. 審査員の関与した作品は応募できない

### 登録・応募

- 応募を希望する方は、応募申込書に必要事項を記入し、  
応募料の振込み控えのコピーを同封の上、JIA東海支部事務局に郵送して下さい。
- 応募資格/応募作品の設計者
- 提出先/(社)日本建築家協会東海支部事務局  
〒460-0008名古屋市中区栄4-3-26 昭和ビル5F  
TEL:052-263-4636
- 応募申込書/当HPからダウンロード可能 <http://www.tokai-archiprize.com/>
- 応募期間/2013年4月1日(月)~5月1日(水)

### 提出

- 建物概要、設計主旨 800字以内
- 図面(配置図・平面図・断面図その他必要と思われるもの)縮尺自由
- 写真
- ※以上をA1パネル縦使い1枚にまとめ提出
- 現地案内図は別紙にて提出
- 確認申請が必要なものは検査済証の写しを提出
- パネルデータ JPG形式(6932×9839ピクセル程度、120MB程度)  
設計主旨のTEXTファイルはCD-Rで送付

### 応募料

- JIA会員1点につき2万円
- 会員以外1点につき3万円
- 振込先ゆうちょ銀行  
口座番号 00890-9-16208 口座名 社団法人日本建築家協会東海支部
- ※確認のため、通信欄に「東海住宅賞2013応募料」と記入の上、振込用紙の控えのコピーを応募申込書と同封の上、お送りください。

### 表彰

大賞1作品、優秀賞2~3、奨励賞2~3とし、入賞者に対して賞状と記念品を贈る。  
表彰式は2013年8月に行う。

### 応募作品の取扱い

応募作品の公表及び出版の権限は主催者が保有する。入賞作品は本会HPで公開する。  
応募作品は返却しない。但し、事務局に取りに来られる場合に限り希望者には返却する。  
(応募作品は6ヶ月間保管いたします)

### お問い合わせ

(社)日本建築家協会東海支部事務局   
〒460-0008名古屋市中区栄4-3-26 昭和ビル5F  
<http://www.jia-tokai-aichi.org/> TEL:052-263-4636

### 審査方法

第1次審査は公開審査とする。  
2013年6月15日(土) 審査員3名による審査  
※応募者全員に公開方式で  
設計コンセプトを発表していただく。  
於:名古屋大学ES総合館ESホール  
第1次審査発表 同日 第2次審査は現地審査とする。  
(7月に審査、設計者及び施主ヒアリング)  
入賞発表 2013年7月末  
審査結果は応募者に直接通知する。  
応募者は審査結果について  
異議を申し立てることはできない。

### 審査員



審査員長 横河 健氏  
日本大学理工学部建築学科 教授  
横河設計工房主宰 建築家  
日本建築家協会会員



審査員 伊藤 恭行氏  
名古屋国立大学芸術工学部教授 建築家  
CAAn(C+A名古屋)  
日本建築家協会会員



審査員 藤原 徹平氏  
横浜国立大学大学院准教授 建築家  
フジワラボ主宰





南面・入り口 扉銅板張



西面妻側・壁の剥離



妻開口・壁の剥離



北側屋根・雨樋の墜落(写真外)



■紹介者コメント

今、復元工事中の名古屋城本丸御殿で、今年5月29日に全体のおよそ1/3の玄関虎の間と表書院が部分公開される。四半世紀にわたる御殿再建の市民運動がやっと実現する。

消失前の名古屋城が、その優美さゆえに城郭建築の国宝第一号だったことはあまり知られていない。名古屋城は1610年、徳川家康の命により築城を開始、本丸御殿は桂離宮古書院と同じ1615年に竣工した、およそ400年前の日本近世武家文化の代表格でもあった。

その名古屋城は明治以後、波瀾万丈の歴史をたどる。明治7(1874)年、陸軍東京鎮台名古屋分室(後に名古屋鎮台)移管、後に二之丸御殿撤去、二之丸庭園を改造、下深井御庭は練兵場(現在の名城公園)となった。その後、宮

内省所管となり名古屋離宮を経て、昭和5(1930)年に本丸以西が名古屋市に下賜されたが、1945年5月14日の名古屋大空襲で、惜しくも、天守(現天守は昭和34年再建)、本丸御殿など、その大半を消失した。この空襲にも耐えて残ったのが、明治初年(築年には諸説)に弾薬庫として建てられた煉瓦造漆喰塗の乃木倉庫である。深井丸西北墨櫃の手前、本丸御殿復元工事の資材加工場の西北にある。

明治初期、陸軍少佐の乃木希典が名古屋鎮台にいたことから、乃木倉庫と呼ばれるようになったと言われ、戦時中には本丸御殿障壁画(現在重要文化財に指定)の一部が避難のためここに保管され、消失の難を免れた。これも名古屋城の歴史を物語る一コマである。

乃木倉庫は名古屋では希少な煉瓦造倉庫で、

面積は約89.3㎡、東西約12.3m、南北約8.6m、高さ約7.7m、棧瓦葺き切妻屋根、建物角は色漆喰(当初)で石積み風につくられた。建物南の入り口上部や床下にアーチ構造が見られ、入り口扉や開口部は銅板張りとなっている。

全体に形状は良く遺されているが、外壁漆喰の剥離、土台の軟石の風化、雨樋の脱落などが見られ、長期保存のためには早期の手入れが望まれる。

所在地：名古屋市中区本丸1-1  
構造：煉瓦造平屋建て 棧瓦屋根 外壁漆喰塗  
設計・施工とも 未確認  
登録：第23-0005 1997年



尾関利勝 | 地域計画建築研究所

データ発掘 (お気に入りの歴史的環境調査)

永保寺庭園と虎渓山



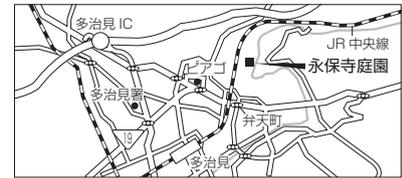
土岐川と荒々しい岩山



苔の中島(奥)と砂利の中島



山道にある数多くの石仏



山号・寺号：虎渓山永保寺  
所在地：岐阜県多治見市虎渓山町1-40  
交通：JR中央線多治見駅バス15分、中央道ICより車15分  
創建年：正和2年(1313年)  
開基：夢窓疎石(開創)、元翁本元(開山)

■発掘者のコメント

京都のある寺に訪れたときに「夢窓疎石の作庭ですよ」と案内の女性が説明してくれたが、京都の庭には珍しく荒々しさのある岩組みに池を配置した庭であった。ふと想い浮かべたのが永保寺の庭であった。

折を見つけて永保寺を訪ねることができた。虎渓山を歩くと、そこには力強い土岐川と山の岩肌がせりあっていた。土岐川は荒々しい箇所と穏やかな箇所とあり、さまざまな表情をしている。永保寺の庭もやはり荒々しい岩の山肌がそり立ち、優美な池に無際橋と中島が配置されていた。目を凝らすと二つの中島は苔の島と砂利の島になって

おり、池のほとりは苔が生えわたっている。池を一周すると、見る角度により表情が変化し実に優美な景観である。苔の種類もさまざまで木陰と光によって表情が移り変わり、このミニマムな世界も実に美しい。

疎石は力強い自然と、優美で優しい自然を対比させた時空に禅の境地を置こうとしたのか。中国の聖地・廬山の風景に想いをはせ、若い頃は大自然の中の景勝地で修行し自然の偉大さに打たれ、納得し、一体感を求めた。修行の場として、溪流・滝・海岸など水の風景、座禅の場として洞窟や眺望の良い座禅石を好んだようだ。永保寺の座禅石も、庭園を見下ろし遠方の山々が見

渡せるところにある。やがて人生後半で、南禅院、西芳寺(苔寺)、天龍寺、等持院などの庭園をつくり出したが、やはり滝や池、座禅石を配置し自然の再構築を試み、象徴性の高い庭園としている。

一方、永保寺の山道には数多くの石仏が座って犬山の寂光院を思わせ、見学、参拝の人を楽ませているのが、この寺の魅力でもある。もう1度訪ねてみたいと思うのだが、また違った味わいを魅せてくれるのではないかと。



鈴木祥司 | アトリエ祥 建築設計

## 2013 年度支部運営費配分について審議



本部理事・副会長 小田 義彦

第208回理事会は、1月18日（金）13：30～17：30、23名の理事（1名欠席）と1名の監事（1名欠席）の出席を得て開催された。

### 【審議事項】

- 1) 5名新規入会、7名退会、3名逝去、休会1名が承認され、4,413名となった。
- 2) 14件の後援事業を承認した。原則、公益目的であることが条件。支部で受けることができる事業は、本部でなく支部で後援する。
- 3) 設計環境改革委員会の委員長交代（東條隆郎元副会長→森暢郎副会長）と、与謝野久委員の解嘱を承認した。
- 4) 2013年度支部運営費配分について：前回の理事懇談会で、本部事務局経費削減により会費収入の4割（昨年は約34%約800万円増）を支部へ配分することを承認したが、今回は毎年踏襲してきた「基礎費（会員数に比例して配分）」と「格差調整費（会員数の少ない支部に厚く配分）」の合算という考え方を再検証した。難解な数式なのでより単純な計算方式が提案されたが、その係数の根拠に必然性がなく、結果、従来と同様の考え方に基づく配分が承認された。ただしこの決定は、各支部が次年度予算作成する時期に来ており協議に時間がかけられないことから、今後半年を目途に再検証していくこと、格差調整費は「調整費」と名称変更することが確認された。これによると東海支部への配分は約80万円増となる模様。

### 【協議事項】

- 1) 本部委員会の再編について：松本敏夫担当副会長から方針の概要説明があり、本部ミッションを執行するための本部委員会は残し、それ以外の委員会は支部へ分散配置し支部間連携のための連絡協議会をどこかの代表支部に置くこととする。本部ミッションとは、①社会貢献（職能委員会、判定・ガイド作成のための公益事業委員会、国際事業委員会）②組織維持（財務・会計委員会、総務・事務委員会、フェロシップ委員会）③会員サービス（業務改善委員会、教育・表彰委員会、広報・アーカイブ委員会）の3つに限る（いずれも委員会名称は仮称）。今後は、現存の本部委員会、WG、部会の委員にヒアリングしその体制・存続について協議する。

### 【報告事項】

- 1) 2012年度決算・2013年度予算作成手順について：2012年度

決算は地域会分（監査済み）を4月10日まで、支部分（監査済み）を4月17日までに本部へ提出（新会計基準で良い）、本部にて新新会計基準に置き換え合算、6月第1週で本部監査の後本部理事会で総会議案書承認、6月末本部総会にかける。2013年度予算は、3月30日までに支部・地域会（新会計基準、概算予算で良い）とも本部へ提出、本部で新新会計基準に置き換え合算の上、上記6月の理事会・総会スケジュールに載せることが報告された。

- 2) ベルコリーヌ問題進捗状況報告：昨年12月21日付けでURと「覚書」を交わし、ほぼ決着が付いた。覚書には①1900万円＋遅延金（平成21年7月1日～平成25年1月31日の法定利息）を平成25年1月31日までに支払う。②覚書に定める以外に、今後何ら債権債務が残らない、との記載がある。これによって、約2,240万円が支払われるが、弁護士費用とベルコリーヌ委員への作業費未支払分の支払いが発生する。今後の反省点として、受託事業のガイドライン作成と、常に理事会が中間報告を受けて状況把握する必要性が確認された。
- 3) 会員増強委員会報告：12月18日現在の2012年度（4～12月）入会114名、退会122名、死亡12名、資格喪失52名、結果72名（期初4,494名の1.6%）減少と増強委員の努力の甲斐あって、少し下げ止まっている。提案のフレッシュマンセミナーについては、理事会でも経費節減の折、実行が難しいとの意見が多い。
- 4) 大学院インターンシップについて（堀越理事）：「産学連携建築教育会議」作成の提案書が披露され、現況報告があった。
- 5) その他 ①終身正会員の扱いについて：定款は現在のものが生きているが、正式承認する2013年度本部総会時点は新定款に変わっているため、今年度は申請受付をしないことを確認した。②2013年度に入り、現在の正会員で新定款に定める正会員の資格を有しない方（一級建築士資格未取得者、建築設計監理に従事していない方など）の扱いは、既得権を尊重し正会員資格を存続することを確認した。③関東甲信越支部規約、関東甲信越〇〇地域会規約（ひな形）が紹介された。特に専門会員とシニア会員の扱いについて全国的に統一したいとの要望が出され、規程類制定委員会で協議することとした。

# 東海支部役員会報告

今回は静岡地域会担当の持出し役員会でした。静岡駅に集合し、日本平ロープウェイに乗り国宝久能山東照宮へ。神職の方はかなり詳しくご案内いただき、正式参拝しました。絢爛な意匠の中に洪さのある素晴らしい建築でした。その後、日本平ホテルを駆け足で見学したのち、静岡駅前のペガサートにて役員会。いつもながらの真剣な討議の後は会場を移し懇親会となり、おいしい料理と地酒を堪能しました。静岡地域会のみなさまに感謝です。



中西修一 | 三重地域会

日時：2013年1月24日(木)16:00~17:30

場所：ペガサート(静岡)7階会議室

出席者：支部長、理事、幹事9名、オブザーバー 7名

## 1. 支部長挨拶

## 2. 報告事項

### (1) 本部報告

①第208回理事会(1/18)(小田) ※理事会レポート参照

②総務委員会(1/17)(服部)

1. 会員・会計システムWG報告：順調に推移

2. 公益法人化移行手続き：1月中旬に内示の予定

3. 会計事務所を変える予定。外部監査をやめる方向で調整中。

③広報委員会・全国支部広報委員長会議 第10回(1/15)(江川)

・東海支部大会決算報告。JIA東海住宅建築賞進捗報告。支部会員増強委員会立ち上げ検討について報告。

・2013年度予算提示が次回あり。発行頻度も含め検討する。

・市民リーフレットWG：リーフレット印刷物を各支部へ配布の要望あり。

・メルマガWGを立ち上げ。会員向け、対外広報の2タイプを検討。

・公益法人化移行に伴う印刷物の扱い：シール貼りなどで当座は対応する。

④CPD評議会(12/25)(塚本)

・プロバイダー申請：1件申請認定。

・プログラム申請：97件中63件認定、1件否認、20件は東海支部認定、13件修正。

⑤建築家資格制度委員会 第117回(12/14)(水野)

・登録建築家について本部の方針を問う質疑が出された。

### (2) 支部報告

①総務委員会(1/15)(服部)

報告を含め、協議事項にて扱うこととした。

(3) 各地域会からの報告(各地域会長) 省略

## 議事

### 1. 審議事項

①入会申込み 渡辺隆氏(尾林) 承認(静岡地域会)

②「JIA東海住宅建築賞」について(吉元)

・主旨：本賞は、愛知県・岐阜県・三重県・静岡県の東海4件につ

くられた住宅(専用住宅・集合住宅など)を対象とし、各自が定めたテーマに対し特に秀でた住宅に対して贈る。今日、建築家としての社会的な意義が問われていると思われる。(中略)プログラム・空間構成・ディテール・環境への配慮・工法などに始まり、さまざまなテーマの中から優れた住宅を募集する。

・表彰の対象者は設計者、施工者、施主とする。

・予算案提示 収支170万円

### [審議]

・赤字が出た場合の扱いは支部負担とする。

・作品集は収入に関わらず出版予定。

・支部長は審査員に入らないこととする。

・応募作品は1年を経過して引き取りがない場合、破棄すると明示する。

・授賞式の受賞者の交通費は受賞者負担とする。

以上を踏まえて承認。(挙手にて賛否。賛成9人/役員13人)

③後援名義使用の件 「デザイン女子No.1決定戦2012」(水野) 承認。

### 2. 協議事項

①支部規約および各地域会規則について(服部)

・資料を提示。各地域会でよく検討し、3月1日の支部役員会で承認して本部に送る。

・三重地域会より要望書提出(中西):現協力会員の扱いについて。現行は本部に所属しているが改正後は地域会扱いの個人協力会員となり、位置付け・性格が変わってしまう。現行同様の扱いをお願いしたい。専門会員などへの位置付けなども含めて検討願いたい。

→総会での決定事項(定款)であり、本部所属とはならない。専門会員扱いも不可。ただし、審議時間がないため、救済処置などを含め、可能性を会議後検討する。

②リフレッシュセミナーについて(水野)

各地域会より参加者を報告する。

### 3. その他

①「建築CAD・BIMに関する意識及び利用状況調査」アンケート依頼の件(水野)

会員にメール配信済み。協力をお願いしたい。

②森口雅文会員(愛知地域会)の名誉会員推薦の件(小田)

推薦者を募っている。次回役員会にて審議予定。



久能山東照宮にて記念撮影



### 舞台造り「美濃清水」

岐阜県下で一番古いお寺「高澤観音 日龍峯寺」。5世紀前半、両面宿禰という豪族が、この地方に害を及ぼしていた龍神を退治し、この山に祠を建立したのが始まりとされ、鎌倉時代、北条政子によって再興されたと伝えられる山寺です。ほとんど車の来ない静かな道中、仁王門をくぐると竹林ともみじに囲まれた参道があります。

本堂は、五間四面、人母屋造り檜皮葺、山頂傾斜地の岩上に建立され、京都の清水寺に似ていることから「美濃清水」と呼ばれています。ただし、舞台上るとギシギシ音が鳴って微妙な恐さ。パワースポットが好きな人なら一度は行く価値あり。ほかにも樹齢約300年の千本松、多宝塔(国



指定重要文化財)など面白いアイテムがいっぱいです。

所在地：  
岐阜県関市下之保  
4585

### みたらしの霊水

高澤観音本堂右手の階段を上がり、裏へ回ると、岩の洞から湧き出す、霊験あらたかな「みたらしの霊水」があります。眼病、子授け、ぼけ封じなどに効くとのこと。その場で一杯いただくと、大変まろやかな味。もう一杯は、持ち帰っていただくとよいそうです。

ぜひ、老眼とぼけ封じにどうですか。持ち帰り用ケースも用意されていますよ。



みたらしの霊水

## 地域会だより

### <静岡>

- 1/10 1月定例運営役員会・JIA塾 (※詳細はP10掲載)  
塾:演題「現場発泡ノンフロン化の必要性について」(野村商店)  
演題「木造耐火建築物に於ける石膏ボードの役割」(稲葉商店)
- 1/24 東海支部持出し役員会 国宝久能山東照宮を見学
- 1/25 建築五団体賀詞交歓会への参加
- 1/30 第4回地域会規則検討委員会
- 2/1-2 全国支部長会議 伊豆長岡:三養荘
- 2/7 2月定例拡大運営役員会
- 2/22 第4回建築ウォッチング、東京工業大学予定
- 4/24 静岡地域会定例総会:ホテルシティオ 予定

### <愛知>

- 2/1 役員会
- 2/8-9 世界劇場会議 レセプション&セッション
- 2/20 JIA愛知 賛助会CPD研修
- 2/21 建築家賠償責任保険解説 説明会
- 3/3 TALK&TALK「変わる家族と変わる住まい」 青年委員会

### <岐阜>

- 1/10 18:00 ~ 1月度役員会および新年  
場所:COA
- 1/27 JIA岐阜地域会講演会開催(公益事業として)  
13:00 ~ 15:00  
場所:各務原市産業文化センター 2F-3  
講師:未来工業相談役 山田昭男氏「常に考える!」  
担当:山田(浩) (※詳細はP13掲載)

### <三重>

- 2/8 第7回例会(建築文化講演会及び「三重の建築散歩展」について)
- 2/23 建築文化講演会  
講師:栗生 明氏  
場所:津市 アスト津 アストホール
- 2/23 ~ 24 「三重の建築散歩」発刊および「三重の建築散歩展」  
場所:津市 アスト津 5Fホール
- 3/8 第8回例会、第6回役員会

## 快適とエコを両立する環境づくりに貢献

賛助会通信 ⑤

梶原 浩史 | パナソニック(株)エコソリューションズ社 名古屋照明EC



パナソニック株式会社は、1918年の創業以来、人々の暮らしの向上と社会の発展に貢献するという経営理念のもと、その時代に求められる「生活環境」の実現を事業使命としてまいりました。

私共エコソリューションズ社は、前身の松下電工、パナソニック電工の時代より、照明、情報機器、電設資材、住宅設備・建材といった分野でご愛顧を賜っております。加えて太陽光発電・蓄電設備などのエネルギー関連商品や空調・換気設備など、グループの幅広い製品群を活用した統合的なソリューション提案を推進させていただいております。

昨今、私が担当しています照明事業分野においては、省エネ性能に優れ、かつ長寿命の光源としてLED照明が非常に注

目されています。しかしながら、LED照明は高効率に注力するとグレアが強くなったり、演色性や色のバラツキ、粒々感、多重影など、光の質の面での課題がまだまだあります。効率(エコ)を追求すると快適性が損なわれ、あるいは快適性を優先させるためにエコが後退するといったトレードオフの関係にあります。私共の「EVERLEDS」シリーズは「快適とエコの両立」を目指した商品展開をしています。

また、照明ソフトや可視化ツールの開発も積極的に行っています。「Feu(フー)」は、世界で初めて「明るさ感」という人間の感覚を数値化し、空間の明るさを表現する新しい指標として開発しました。「リアルCG」は、忠実なシミュレーションにより、設計段階におけるさまざ

まな不安の解決にお役立ちいただけるツールです。

商品のみならず、照明ソフトの充実により「快適とエコの両立」を実現した光環境を、建築家の皆様と共に創り出していくことを今後も進めてまいりたいと考えていますので、何卒よろしく願いいたします。



パナソニック リビング ショールーム名古屋

●パナソニック(株)エコソリューションズ社  
名古屋照明EC  
〒586-1061 名古屋市中村区名駅南2-7-55  
TEL 052-586-1061 FAX 052-581-7734

## 編集後記

●笹子トンネルの天井崩落事故以降、社会インフラの劣化が問題になり、公共投資の予算が防災対策に重点的に配分されようとしています。建築においても既存ストックの活用、長寿命化が課題となっており、耐震補強・改修といった仕事にかかわる機会も増えています。

耐震改修工事では、内外装を撤去した段階で躯体をチェックして回るのですが、40年から50年たった建物は傷んでいる箇所も多く、追加で補修や補強が必要になることも珍しくありません。そうした建物を見て回っているとき、新築のときよりも親近感を感じるの、建物が自分と同世代だからかもしれません。そして、痛んだ躯体の補修は他人事ではなく、自分の体についても考えてしまいます。くたびれた建物に自分を重ねてみれば、これから少しは健康に気を

つけてメンテナンスを行い、自分自身の長寿命化についても考えないといけないようです。(石田博英)

●池田武邦氏の講演記事を読んで考えさせられた。いわゆる大手設計事務所と呼ばれる組織の代表を務め、戦後建築界の先頭集団を走っておられた氏が、江戸時代の循環型社会や、自然に畏敬を払う日本文化を見つめ直すべきと、自戒を込めて述べられたという。「発展」や「開発」の負の側面である「排除」や「破壊」をある程度黙認してきた「近代建築」という価値観への反省。バブルの象徴とも思われがちなハウステンボスだが、実は「持続」と「共生」への思いを胸に抵抗を開始したアンチテーゼだったと知った。3.11以後、何の反省もなく、むしろ悪夢のような現実を置き去りにして、原発再稼働？ オリンピック誘致？ 正気を疑うような日本の現状に誰も声をあげない状態。日本も大いに手を貸し、中国や中東をはじめ世界中が西欧文明・文化の大量消費社会に

誘導された挙句、地球規模の環境破壊が進出し、手が付けられなくなった現在。近代化の御旗を掲げ、必死に日本が目指してきたものは何だったのか。(佐竹一朗)

## ARCHITECT

第294号

発行日 2013.3.1 (毎月1回発行)

定価 380円

発行責任者 鳥居久保

編集責任者 吉元 学

編集 東海支部会報委員会  
愛知地域会ブリテン委員会  
建築ジャーナル内  
ARCHITECT 編集部

名古屋市東区泉 1-13-35

CSC HISAYA BLD.

TEL (052)971-7479 FAX 951-3130

発行所 (社)日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052)263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

http://www.jia-tokai.org/